

おはよう戸田

2016年度 第1号

市民が最優先。

戸田市議会議員

酒井いくろう



戸田市における保育環境の改善

「保育園落ちた日本死ね」と題したブログ記事が注目を集めています。なかなか解消しない待機児童の問題を痛烈に指摘する内容で、国会でも取り上げられました。多くの人が苦しんでいる「保育所不足」。戸田市においては、数年前に「待機ゼロ」を宣言し、毎年3~4園を新設しているにもかかわらず、300人以上という多数の待機児童がいまだに解消されていません。

これまで通りのやり方では、解決はとて無理。公立・私立の壁、保育園・幼稚園の壁、担当部局の壁を取り払い、幼稚園の認定こども園への移行、運営の効率化と財源確保、保育士の確保（処遇改善）、物件確保、事業者の誘致など、従来にない発想による全体的なとりくみを求めています。

子どもたちの安全、保護者の安心のために、保育環境の改善を提案してきました。市立保育園においては、いくつかの提案が採用され、実際に改善されています。

用済み紙おむつを園がまとめて廃棄すれば、お互いに手間暇が減らせるわけです。また、汚物の付着したおむつを持ち歩くのは清潔とはいえず、ノロウイルスなど嘔吐下痢症の感染源となる恐れもありました。

この4月から市立園の持ち帰り制度が廃止され、園での廃棄に切り替えられました。

国の基準から外れた危険な状態を是正

使用済み紙おむつを保護者が持ち帰る制度は、主に（戸田市に限らず）公立保育園等の一部に見られます。戸田市においては、「不便だけでなく、国の感染症予防ガイドラインが守られない危険な状態である」と平成24年に指摘。その後も再三要望を行い、ようやく28年度からの是正が決定しました。

保育所・学童保育の食品添加物

乳幼児・学童期は、生涯の食習慣を形成する大事な時期です。現在、戸田市の保育所・学童保育は給食・おやつに食品添加物の削減にむけて努力しています。

特に、市立園の給食やおやつの改善については、専門の栄養士を配置した本格的なとりくみを行い、現在は、厳しい基準で知られる小学校給食よりもさらに高い水準の給食・おやつを提供。他市町村に対しても誇りうる、素晴らしい取り組みとなっています。

基準なき保育の「食」の安全性を改善

小学校給食には国のガイドラインがあり、厳しい基準に基づいた給食が提供されています。一方、保育所や学童保育にはこれといって基準がなく、有害性が疑われる添加物の使用や、おやつにスナック菓子が出されるなどの課題がありました。平成25年にこうした課題について要望し、市立の保育園や学童保育での改善につなげました。

今後は市全体における改善を

市立園におけるこうした改善を、今後は私立園を含む市内の全施設に広げていくことが期待されます。議会(28年3月・一般質問)における提案に対し、①園でのおむつ処分については、市内のほぼ全園で実施の見通し、②添加物削減については、目標を示し、園長、栄養士に働きかけることで実現を目指す、との答弁。まずは市全体での実現へ向けた第一歩が踏み出されます。

議員の海外派遣、見直しを

戸田市では例年、海外友好都市への議員派遣を行ってきました。しかし、毎年の大規模な議員団派遣は多額の予算を要すること、また他市町村にあまり類のない制度であることから、私は一貫して大幅な見直しを求めてきました。

平成27年度の中国開封市への派遣については、所属会派「戸田の会」を代表して派遣人数の削減等を求めたものの、実現の見通しが立たず、会派メンバーと共に派遣反対の立場（本会議の採決において4人の会派メンバー中、反対3、退席1）を取りました。

議員の多くは海外派遣に賛成していますが、本音では「今後は難しいのではないかと考える人もいます。来期の議会においては、大幅な見直しを実現するかもしれません。

酒井いくろうは、

- 「市民が最優先」しがらみのない立場で、“既得権を持った一部の人間”ではなく、“市民”の意思を反映してまいります。
- 「税金のムダ一掃」行政の効率化に近道はありません。コストを分析し、具体的なムダを指摘していきます。
- 「議員特権の廃止」議員特有の手当や制度を廃止し、支出の削減をはかります。

口利きはダメ!



国政で「口利き」が問題になっています。戸田市においても市議会議員の行政への介入が問題になったことや、団体・個人による不当な働きかけが行われたこともありました。

他自治体においては「口利き」防止のために、行政への要望活動の記録と公開を定めた「口利き防止条例」が制定されています。全国の都道府県と政令市59団体のうち、条例を制定している、あるいは制度はないが記録を行っている自治体は、31団体と過半数に上っているとのこと。

条例は効果を上げており、例えば熊本市では、条例制定後11人の市議会議員が、職員の移動に関し、また31人の市議、県議が臨時職員採用に関し、口利きを行っていたことが明らかになったそうです。

戸田市においては、議会における私の提案に対し、「不正の事例は無い」旨の答弁がありました。しかしながら、戸田市には「口利き防止条例」以前の問題として、行政への要望のとり扱いについてのきまりもありません。こうしたきまりは、市民の声を行政運営に効果的に反映させるためにも必要だと考えます。非公式ながら市長の前向きなコメントもあり、今後に期待したいと思っています。



使用済み紙おむつ、園で廃棄へ

従来、市立園では排泄後の使用済み紙おむつは1つ1つビニール袋に入れられ、お迎えの際に保護者がまとめて持ち帰り、家で処分するのがきまりでした。保護者にとっては特に、精神的な負担が大きく、改善を求める声がでていました。考えてみれば、使

酒井いくろう プロフィール

1975年3月4日生まれ。戸田市議会議員(2期目)。無所属。会派「戸田の会」代表。

【学歴】東京大学医学部健康科学看護学科卒業、同大学院修了(医療政策)

【職歴】マッキンゼー(経営コンサルタント)、(株)ポピンズ(保育) 【家族】妻、娘(4才・2才)、息子(0才)

※初選挙より選挙カーを使わず、政策本位で活動中



ウラ面もあります→

ススめ! 教育改革

全国が注目する戸田の教育改革。 子どもたちの未来をひらけ!

3月の戸田中学校卒業式にて。市長、教育委員会、校長の3者が同内容の祝辞を述べるという前代未聞の珍事がありました。興味深いのはその内容。「今ある仕事の大部分は、コンピュータやロボットに代替される。そうした中で大切になるのは課題解決や粘り強さなどの能力なので、たゆまず伸ばして欲しい」という趣旨のメッセージを三者三様に語り掛けておられました。

こうした基本的な時代認識と課題設定を行政トップ(市長)、教育トップ(教育委)、現場トップ(校長)が共有し、同じ方向を目指して進んでゆけば、戸田市で始まった教育改革は成功への土台ができたこととなります。

昨年度から、戸田市は教育改革にとりくんでいます。新しい教育長のもと、変化の激しい現代に対応した施策を、次々と実行。新しい教育方法の導入、教職員の育成、いじめ、教育行政の組織改革、産官学民との連携、先生方の多忙の問題、子どもの貧困や学習支援、小中学校の一貫化…どれをとっても困難な課題を同時進行で解決しつつある、まさに「改革」と呼ぶにふさわしいものです。

提携先の多彩さも規格外です。文部科学省や大学、研究機関のほか、ベネッセ、リクルート、栄光ゼミナール等、国内の一流企業や大手塾だけでなく、インテルやグーグルなど世界の超一流企業との提携を行ってきました。市町村の教育分野でこれだけの提携を成功させてきた例は、私の知る限り戸田市以外にはありません。

もし順調に教育改革が進んだならば、全国トップクラス、世界的にも注目される事例になると思われます。残念なことに、少数ながら、腰の引けた関係者もいます。もちろん、いろんな意見があっているのですが、私はこの挑戦をやりきることが、戸田市の子どもたちの未来につながっていくと思います。戸田の教育改革、本当に目が離せません!

教育長が改革ビジョンを語った議会映像は必見!
戸田市議会ホームページ中、
酒井の一般質問(平成28年3月)をご覧ください。

情報化、グローバル化が進展する労働環境で仕事に就くのは、ますます大変になっていくと予想されていますが、こうした社会に対応するためにカギとなるのは「アクティブ・ラーニング(主体的・協働的な学び)」であると言われています。具体的には、体験学習、調査学習、教室でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどの学習方法が挙げられます。



タブレットを活用した授業。時代に対応した「新しい学び」にはデジタル環境が欠かせない

まったなし!医療センターの立て直し

27年度は約3億円の赤字。 今後は医療の質低下の懸念も。

戸田市民医療センター(以下、医療センター)は、戸田市が運営するベッド数19床の有床診療所。戸田市西部(美女木・笹目地区)の医療を担う一方、ここ数年は医師不足等による医療機能の低下が見られました。

経営は赤字が続いており、「経営改革プラン」を立案。ところが5か年計画の経営改革プラン4年目にあたる27年度、プランによれば繰入金(収支不足の補てん)1億6000万円に抑える計画のところ、実際には約3億2000万円と計画のほぼ2倍。プラン最終年度の28年度も、プランによれば繰入金1億3500万円の計画のところ、実際の予算では4億円を計上。経営改革プランは破たんし、市民医療センターの、経営改革の主体としての適格性に疑問が持たれる事態となっています。

現時点においては、財政に比較的余裕があるからこそ、多額の繰入が認められ、運営が成り立っています。しかし今後は、市全体の財政悪化が見込まれており、このまま赤字を補てんしていけるとは限りません。そうなれば医師の確保や医療機器の更新を行う資金もままならず、医療の質が低下することも考えられます。

経営改革プランがうまくいかなかった大きな原因は、専門知識の不足です。医療機関の経営改革という高い専門性の求められる仕事を、市職員に求めるのも酷なことです。そもそもプラン自体が適切に立案されておらず、またプラン



昨年、約15億円をかけてリニューアル。
近代的な施設になった市民医療センター

の評価に不可欠な経営データすら十分把握できていない状況です。

市は、医療センターの民間委託等を検討しており、28年度末を目処に判断する予定となっています。このまま市直営でいくには、経営改善にむけた相当厳しいとりくみが必須。それをやる見通しが立たなければ、民間の力を借りるのがベストであると考えます。

市民医療センターの経営問題にメスが入られてこなかった理由の一つは、市民医療センターが60年以上にわたり地域の医療を担ってきたという、情緒的な面であると思います。経営改革という、どうしても規模縮小(リストラ)やサービス低下が思い浮かびますが、そうではありません。むしろ周辺医療機関との連携強化や住民ニーズに合わせた医療サービスを目指し、患者数を増やすことで収支を安定させるのが目的です。実施に当たっては、地域住民の不安に配慮した、ていねいな説明が求められます。

質の高い議員活動のためには、皆様からのご意見が必要です。

どのようなことでもぜひご一報下さい。

戸田市議会議員 酒井いくろう

【Eメール】 ikuro.sakai@gmail.com

TEL/FAX: 048-432-9168

酒井いくろうウェブページ

<http://sakai-ikuro.com/>

酒井いくろうフェイスブックページ

<https://www.facebook.com/sakaiikuro/>

「いいね」で登録をお願いします!

